

Factors associated with the improvement of body image dissatisfaction of female patients with overweight and obesity during cognitive behavioral therapy

横山, 寛明

<https://hdl.handle.net/2324/7182337>

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : ©2022 Yokoyama, Nozaki, Nishihara, Sawamoto, Komaki and Sudo



氏名： 横山 寛明

論文名： Factors associated with the improvement of body image dissatisfaction of female patients with overweight and obesity during cognitive behavioral therapy

(女性肥満症患者に対する認知行動療法に伴うボディイメージへの不満足感改善に関連する因子の検討)

区分： 甲

論文内容の要旨

背景：認知行動療法（Cognitive behavioral therapy: CBT）は肥満症治療に対する代表的な心理療法の一つである。肥満症に対するCBTは、神経性大食症および過食性障害に対するCBTに由来を持つ。神経性大食症および過食性障害に対するCBTは、通常は体重にはフォーカスせず、食行動およびボディイメージへの不満足感（Body image dissatisfaction: BID）の改善に焦点を当てる。これに対し、肥満症に対するCBTは、食行動改善とBID改善だけでなく、体重減少も重要視する。肥満症に対するCBTに伴うBID改善に、体重減少以外の因子が関連するかどうかについては、現時点で明らかにされていない。

目的：本研究の目的は、肥満症に対するCBTに伴うBID改善に、体重減少以外の因子が関連するかどうかを明らかにすることである。

方法：CBTに基づく7か月間の減量治療を完遂した女性肥満症患者163名（Body mass index $31.8 \pm 5.2 \text{ kg/m}^2$ ，年齢 49.3 ± 10.5 歳）を対象とした。自己記入式質問紙を用い、治療前および治療終了時点におけるBID、抑うつ、不安、むちゃ食いおよび完全主義を評価した。

結果：BIDの変化量（以下 Δ ）と相関が見られたのは、治療前BID、治療前むちゃ食い、体重減少率、 Δ 抑うつ、 Δ 状態不安、 Δ 特性不安、 Δ むちゃ食いおよび Δ 完全主義であった。多変量回帰分析の結果、治療前BID、治療前むちゃ食い、体重減少率、 Δ むちゃ食いおよび Δ 抑うつが、独立して Δ BIDと関連していた。

結論：体重減少だけでなく、むちゃ食いの改善、抑うつの改善が独立してBID改善に関連していた。